

ひとり親家庭への支援に関する関係機関実態調査結果（速報版）（案）

回答数：56

【対象機関】

分類	対象	回収数
相談・支援機関 (行政)	子どもの育ち見守りセンター (母子・父子自立支援員、家庭児童相談担当等)	4
	男女共生フロアウィル（女性相談担当）	1
	地域健康福祉室（健康福祉総合相談担当） (生活困窮者自立支援センター)	2
	保健センター（母子保健担当）	2
	枚方公共職業安定所	3
	大阪府中央子ども家庭センター	1
	女性相談センター	3
相談・支援機関 (行政以外)	枚方市母子寡婦福祉会（母子父子福祉推進委員）	1
	枚方市父子福祉会	1
	子育て短期支援事業実施団体 (ファミリーポートひらかた)	1
	枚方市ファミリーサポートセンター	1
	枚方市社会福祉協議会	2
	母子生活支援施設	1
	枚方市民生委員児童委員協議会	1
	NPO法人枚方人権まちづくり協会	1
	NPO法人しんぐるまざあずふぉーらむ関西	3
	大阪府母子寡婦福祉連合会 (大阪府立母子・父子福祉センター)	3
	大阪府社会福祉協議会	3
	子ども食堂	2
教育・保育関係者	小中学校（教頭・教員・養護教諭）	6
	保育所（園）・幼稚園・認定こども園	9
	留守家庭児童会室	5

問1 日頃の取り組み内容について、特に、ひとり親家庭等の保護者や子どもに対してどのような支援を行っていますか。
把握されている範囲で簡単に教えてください。

問1（保護者に対する支援）	回答数
経済的支援	6
相談、アドバイス、傾聴（家庭環境の考慮）、情報提供	29
就労支援、資格取得のための講座開催	9
締め切りの猶予	1
養育支援（主に保育など）	5
声掛け（気に掛ける）、見守り、相談しやすい良好な関係・環境づくり、家庭訪問	12
食品支援	4
法律関係の支援、自立支援	3
生活支援（料理、洗濯）	2
関係機関へのつなぎ	9
保護（DV等）	1

問1 日頃の取り組み内容について、特に、ひとり親家庭等の保護者や子どもに対してどのような支援を行っていますか。
把握されている範囲で簡単に教えてください。

問1（子どもに対しての支援）	
学習支援	6
親への支援（親へのアドバイス等）、親子関係への支援	4
料理教室、絵本の読み聞かせなどやイベントなどの参加へのサポート（親以外との関わりの支援）	4
声掛けの配慮（ひとり親家庭などには「おかあさん」など固定しない）など	7
養育支援（登校や入学、療育支援、健康面など）	5
発育・発達の確認	1
子どもへの支援（子どもの同士の繋がり、過ごしやすさ、会話からの状況把握、信頼関係の構築）	11
生活の見守り	3
食品支援	4
支援の提供（関係機関へのつなぎ、ヘルパーの派遣など、関係機関との情報共有）	7
経済的支援（高校等の費用、現物支給）	4
保護（DV等）	1

問2-1 関わっておられる支援の対象者（ひとり親家庭等の子どもや保護者）は、主にどのような悩みや困難を抱えておられますか。

問2-1（保護者自身や家庭のことについて）

選択肢	回答数	回答率
(1) 住居について	18	11%
(2) 仕事について	39	24%
(3) 家計について	39	24%
(4) 家事について	19	12%
(5) 健康について	24	15%
(6) 親等の介護・健康について	8	5%
(7) その他	16	10%
(8) 未回答	2	1%
合計	165	100%

(7) その他の内容	
元パートナーの面会交流について	3
暴力被害（DV・虐待）	4
パートナーとの関係	3
子どもの預け先について（平日以外の子どもの預かり先など）	2
仕事と家庭・子育ての両立	2
シングルマザーの実家の親族との関係・トラブル（相談する相手がない）	2
金銭的問題（借金、携帯、金融ローン等）	2
生活上の問題（食事、子どもの兄弟に関すること）	1
精神上の問題（精神的な不安、病院に行けていない、自分自身の安らぎがないなど）	2
安全確保について	1
家族関係（パートナー以外）	1
子どもとの関係について	2
法的な手続きなど（親権、公正証書、裁判等）	1

問2-1 関わっておられる支援の対象者（ひとり親家庭等の子どもや保護者）は、主にどのような悩みや困難を抱えておられますか。

問2-1（子どものことについて）

選択肢	回答数	回答率
(1) しつけ	20	11%
(2) 教育・進学（経済的理由）	29	16%
(3) 教育・進学（その他の理由）	18	10%
(4) 就職	5	3%
(5) 非行・問題行動	19	10%
(6) 健康	17	9%
(7) 食事・栄養	19	10%
(8) 不登校	20	11%
(9) ひきこもり	10	6%
(10) いじめ	8	4%
(11) その他	14	8%
(12) 未回答	2	1%
合計	181	100%

(11) その他の内容

きょうだい間の不仲	1
暴力被害の影響（一時保護中の学習、児童虐待）	3
病気や怪我の通院について	1
親について（関係性や仕事と子育ての両立などの問題）	2
友達関係	1
障がいのある子どもの養育や成長について	3
成長に関すること（発達段階や特性によるやりにくさ、発達面の課題）	2
生活について（睡眠時間、転校、清潔でないなど）	3
子ども自身に相談できる場所がない	1
精神的なことについて	1

問2-2 支援の対象者が抱える悩みや困難のうち、最も多いと思うものの具体的な内容について教えてください。

問2-2（保護者自身や家庭のことについて）

仕事と家庭・子育ての両立（大変さ）	8
就労について（仕事が見つからない、続かない、キャリアアップが難しい等）	12
人間関係の問題（職場等の家族以外）	1
子どもとの関係について（子どもが留守番をして親が仕事に行く、接する時間が少ない、余裕がないため子どもから離れたい）	10
暴力被害の影響	1
保育所への入所の問題（空きがない、近隣に通えない）	2
金銭的問題（必要な経費が一括で払えない、経済的な不安）	12
生活上の問題（実家の経済状況により公的保護が受けられないが、実家からの保護もない等）	9
精神上の問題（精神的な不安、家族への心配など）	6
安全確保について	1
家族関係（パートナー以外）	1
子どもの養育について（ひとり親、婚外子、内縁、未婚の場合等）	1
パートナーとの関係解消について（離婚など）	1
公的な支援の乏しさ（扶養手当の終了後など）	3
情報の乏しさ（地域や支援の情報にたどりつかない）	1
新型コロナウイルスの影響	4
法的手続きに関する問題について（離婚調停、養育費についてなど）	1

問2-2 支援の対象者が抱える悩みや困難のうち、最も多いと思うものの具体的な内容について教えてください。

問2-2 (子どものことについて)	
健康面の問題 (食事含む)	6
将来の自立に向けての支援	2
精神的な問題 (ストレス) による問題 (親の離婚などによるストレス、自己肯定感の低さなど)	3
しつけについて	6
暴力の影響 (DV・虐待など)	2
子どもを預けるための手続きや転校の手続きなどの困難さ	2
仕事と子育ての両立の大変さによる親の子どもへの影響	2
子どもとの関係性 (しつけを頑張りすぎている、関りが少ないなどによる子どもが荒れている)	11
友達との関係がうまく作れない、物忘れなど子ども自身のトラブル、いじめ、不登校など	10
親子関係の不安 (子どもの立場から不安を感じる)	2
障がいを持つ子発育や発達について福祉の不十分さによる養育の困難さ	2
経済的な問題	7
相談機関 (公的機関含む) との連携、支援の相談について	2
子どものケア	4
支援の拡充	1
ひきこもりになっている (子ども・年齢的には大人も含む)	1

問3 ひとり親家庭に対して支援を行ううえで、特に課題だと感じるものはなんですか。当てはまるもの1つに○をつけ、その具体的な内容について教えてください。

選択肢	回答数	回答率
(1) 支援者自身の知識や経験、マンパワーが不足している。	12	17%
(2) 支援が必要な家庭を発見・把握する方法が難しい。	6	9%
(3) 支援が必要な家庭へのアプローチする方法が難しい、または支援を拒否される。	16	23%
(4) 支援に必要な社会的資源 (相談機関、支援制度など) が不足している。	20	29%
(5) 行政との連携 (または行政の他の関係部署との連携) が不足している。	6	9%
(6) 行政以外の他の支援機関との連携が不足している。	2	3%
(7) その他	6	9%
(8) 未回答	2	3%
合計	70	100%

(7) その他の内容	
就労の困難さ	1
近隣からの支援不足 (例: 母子家庭などでの親の体調不良時の子どもの面倒を見るなど)	3
支援が必要な人が、支援を受けることができる	3
支援機関の不足、人手不足による対応への不安やサポートができない状況がある	6
家庭内のことに関わることへの躊躇	1
当事者意識の無さや、相談することや支援への抵抗による困窮 (時間が無く制度を読み込めない、支援や制度の案内を受け入れない、親族間でのトラブル等)	7
広報活動のむずかしさ (必要な人に届かない、利用につながらない)	1
公的なサポートの充実の必要性 (養育費の支払い要求の手続き援助など)	1
制度の中身の不足、現状にあっていないことの改善 (ニーズにこたえる応用力、包容力の必要性)	2
連携不足について (ワンストップでの対応の必要性)	1

問4 ひとり親家庭等への支援を行ううえでの他の支援機関との連携について、連携を図る上での課題や工夫していることはありますか。（行政機関）

問4（行政機関）		回答数
課題	支援内容の不足（担当職員がすぐ変わる、所在地が遠いなどでタイムリーな対応が困難、直接的な情報交換の期間が無い、提案できる情報やサービスが乏しい）	9
工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の延長をお願いしたり、ボランティアでの施設支援を行っている。 ・必要に応じて相談者の許可を得た上での担当者との連絡調整。配架する情報媒体の更新。 ・子どもの所属する学校等に支援をお願いし、学校等の苦勞を受け止め共に支援を行えるような体制づくりを心掛ける。 ・積極的に行政機関と情報交換を行い、お互い顔が見える連携を行うことで些細な兆候も見逃さないようにしている。 	
課題	連携不足（連携を求められない、関係機関からの情報提供が無い、具体的にどのような支援があり、つなげられるかがわからない）	15
工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学校への連絡、上司への報告・日頃から関係機関と連絡を取り、関係を築く努力をしている。 ・重要な情報は課内で共有している。関係機関に研修を依頼。 ・わからないことを質問したり、担当者に連絡を取るよう心がけている。 ・連絡を密に取り、情報共有を適切に行い、相談者が同じ説明を何度もしなくてよいようにしている。 ・ひとり親の情報に限らず、CWや支援員と話し合う。 ・他の支援機関につないだ後も情報がわかりやすいように報告を行い、同行支援なども行う。 ・学校に連絡し、担任や校長、教頭等と情報共有するように努めている。 ・市の取り組みをFBやHPにアップし、アナウンスしている。 ・話し合いをおこなう。・小さなことでも細かく報告する。 ・相談内容や保護者の様子を連携機関に伝えている。 ・保護者からの相談や子どもについて気になる様子があればすぐに共有できるよう、連絡を取るようしている。 	
課題	機関の役割や特徴の相互理解	2
工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の同意の上、情報を密にして継続的な支援を行う。 ・支援の必要な内容を聞き取り、把握し対応する。いつでも話を聞く機会を持つ姿勢を示す。 	
課題	不便さ、相談のしにくさ（対象者が直接行かないと受けられないサービス、手続内容が難しい、相談できることをそもそも知らない）	4
工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な場合は、同伴している。 ・事前にサービス内容を確認し、同行して窓口に行く。 	
課題	個人情報への壁（本人でないと答えてもらえない、必要な情報が入ってこない、情報量に差がある）	6
工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・個人情報を伏せた上で、代理で利用できるサービス等を相談している。 ・援助関係が継続している場合は、相談者から支援の状況や経過を伺う。 ・事実確認の電話等、必ず連絡はしている。 ・連絡を密に行い、信頼関係を築く。 	
課題	ワンストップ窓口がない	1
工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・同行支援を行い、相談窓口への取り次ぎを行う。 	
課題	広報力の不足	1
工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・資料送付時にチラシの同封に協力いただいている。 	
課題	連携が取れており、現状では特に課題はない	1
工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・同行支援や関係機関同士での打ち合わせを頻繁に行う。 	
課題	親との関係性（保護者と会えない）	2
工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒から情報の聞き取りを心掛けている。健康状態から家庭環境を推測し、対応するようしている。 	

その他工夫に関するご意見

<ul style="list-style-type: none"> ・問い合わせがあった場合、事実をきちんと伝えるために記録を取っている。 ・各市や他の支援機関等で実施されているサービスや支援などを相談者に説明し、支援に結び付くよう配慮している。 ・相談に行きやすいように同行や、承諾を得て情報提供を行う。虐待やDVの可能性のある世帯は担当へつなぐ。 ・定期的な情報交換の場を設けている。 ・各市町村の自立支援員の方と連携し、広報活動や仕事の情報等を発信し、ひとり親家庭の親の支援につないでいる。
--

問4 ひとり親家庭等への支援を行ううえでの他の支援機関との連携について、連携を図る上での課題や工夫していることはありますか。（行政以外）

問4（行政以外）		回答数
課題	連携不足（連携を求められない、他団体にどのような人がいるのかわからない、DV被害者支援や危険性や現状でできることとできないことの理解が難しい場合がある、一部の機関とは連携が取れてもその他の機関との連携が少ない。）	8
工夫	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に地域の会合に顔を出す、日ごろから助成金を使ってイベントやセミナーを開催し、連携のツールとしたい。 できる限り、DV被害者支援について伝え、理解を求める。 必要な機関とは連携を取るようにしている。 多様なジャンルの経験者の知恵を拝借し、問題解決にあたっている。 ニュースを関連団体、女性セミナー、支援団体に送付している。FBやHPにアップしている。 	
課題	個人情報の壁（個人情報や非公開情報の管理及び取り扱い、本人でないと答えてもらえない、関係機関との連携に限界がある）	5
工夫	<ul style="list-style-type: none"> 支援の役割分担・個人情報を伏せた上で、代理で利用できるサービス等を相談している。 地域の活動者やNPO等の支援者からの聞き取り、学校支援機関からの情報収集。 	
課題	親との関係性（保護者が知られたくない、現状を認められないなどで伝えないことがある）	1
工夫	<ul style="list-style-type: none"> 単身赴任されている保護者についても同じように気にかける。 	
課題	就労について（民間事業所に求人を出してもらう）	1
工夫	<ul style="list-style-type: none"> 情報の連携を取り、お互いにケースや世帯に対してアプローチできるようにする 	
課題	支援の制限（支援機関での規則等でできること、できないことが出てくる、	1
工夫	-	
課題	不便さ、相談のしにくさ（費用負担や手続内容が難しいことで敬遠される）	1
工夫	<ul style="list-style-type: none"> サービスの細かな部分を支援者が理解した上で提案できるよう、日ごろから情報収集に努めている。 	
課題	支援内容の不足（日々の生活を支えるようなサービスが不足している、急な対応や年齢制限で対応が困難）	3
工夫	-	
課題	機関の役割や特徴の相互理解（各機関の役割や目的をお互いに把握しにくい側面があり、互いの業務内容の無理解から軋轢が生じることがある。保育園以外の教育機関との「支援」に対する考え方の違い。	2
工夫	<ul style="list-style-type: none"> カンファレンスを開催し、それぞれの目的、考え、機能等の業務内容を理解し、互いの役割分担を明確にし、チームとしての支援体制を構築する。 保育所支援、家庭支援について直接（電話含む）話をし、それぞれの考え方をすることで保育園でできることをより理解し、丁寧な支援につなげていく。 	
課題	父子家庭について	1
工夫	-	

その他工夫に関するご意見

<ul style="list-style-type: none"> 気になることがあれば、児童会室から学校へ相談に行っている。 学校の担任、管理職とは連携を密にとっている。 民生委員や地域の方の関りがあるケースでは、見守りなど連携することがある。 電話でのやり取りが多いため、日ごろから相談しやすい関係を築くよう心掛けている。 他の機関が主催する研修会やセミナーなどの催しに参加し、交流を図るよう努めている。 子どもの貧困対策として全国母子寡婦福祉協議会と株式会社ローソンの協力で全国のひとり親家庭の子ども400名に給付型奨学金の事業を実施している。 活動をより多くの人に知ってもらうため、記録紙やSNSなどでわかり易く情報発信を行う。 地域の主任児童委員や民生委員、児童委員の方々と、地域の会議等を通して関わる機会を持っている。
--